令和4年度　大田区立館山さざなみ学校　自己評価　報告書

令和4年5月1日

○　本校の概要

本校は、千葉県館山市に位置する全寄宿舎制の区立病弱特別支援学校である。区内小学校3年生から6年生までの児童が家庭を離れ、ぜん息、肥満、偏食、病虚弱の健康課題を克服するために、寄宿舎生活の下に生活・学習に取り組んでいる。教育課程は各教科の年間授業時数を含め通常校と同様であるが、特別支援学校であるため他に年間35時間の健康課題克服のための「自立活動」の時間が設定されている。児童の指導においては、学校と寄宿舎が連携の下に、少人数制の利点を活かした「学力の定着と向上」、集団生活の中で互いを認め合いながら自己肯定感や自信を培う生活指導の充実を目指している。今年度は特に他者との関わりを重視し、校内研究の主題を「人間関係を深め合う児童の育成～対話活動から話し合いへ～」とし、実践に取り組んでいる。また、本校の位置する地域は、学校設置者であり保護者が生活する大田区とは異なるという特殊な環境下にあるが、地元の小・中学校も含め、地域の方々は非常に協力的で、本校の教育にも理解を示していただいている。大項目である「地域と共に歩む学校づくり」を念頭に、学校が果たすべき役割を踏まえた上で、学校と地域、そして家庭間のいっそうの連携強化を実現していく。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価		これまでの取組・今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	3	年度末児童アンケートの「タブレットや電子黒板などのICT機器を使う授業では、勉強が分かるようになりましたか。」という質問項目で、 4：肯定的評価が90%以上 3：肯定的評価が80%以上 2：肯定的評価が70%以上 1：肯定的評価が70%未満	4: ○ 3: 2: 1:	A	・教員はタブレット・電子黒板などのＩＣＴ機器を積極的に使用し、また児童に対しても活用方法を習得させて、多様な表現力を身に付けさせることができている。また、毎月のＩＣＴ関連業者のインストラクターの派遣により研修を行い、個々の力量を向上させることができた。 ・各授業の実施に当たり、個の学習、ペア学習、グループ学習、一斉学習と多様な学習形態を意図的に取り組み、意見を交換する場を意図的に設けることにより、児童一人一人の思考力や表現力を培うことができるように取り組むことができた。また、その結果児童が主体となって学び合う場を確保しようと教員が意欲的に取り組むことができた。	A B C D	9 1 0 0	○時代に合っている教育ができていることは素晴らしいと思います。子供たちの能力を向上させてください。 ○よく分かりません。 ○道具を使っての授業も大切ですが、自然を生かした取り組みも、子供の興味・関心を促します。子供には、とても記憶として残ると思います。 ○子供たちの学び合いが大切で、様々な学級形態や学びの場が設定されていることが、より深い学びにつながっていると思います。 ○人数は少ないものの、グループ学習や一斉学習等を充実させていくことで、思考力・表現力が伸びていくと思います。素晴らしいことです。 ○ICT機器の積極的に活用して指導に役立てたり、児童が使いこなす能力を身に付けさせたりすることは、これからの社会で、社会で必要な資質・能力だと思います。また、合わせてコミュニケーション能力を高めるために、ICT機器を活用しつつも、意見交換する学習の工夫をお願いしたいです。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4							
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3：80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2：60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1：60%未満であった。	4							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	4							
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	4	年度末児童アンケートの「副籍校にいたときより勉強が分かるようになったと感じますか。」という質問項目で、 4：肯定的評価が90%以上 3：肯定的評価が80%以上 2：肯定的評価が70%以上 1：肯定的評価が70%未満	4: ○ 3: 2: 1:	A	・学力の定着を図るために、タブレットのドリル学習やステップ学習を長期休業中に家庭学習で取り組ませることをねらったが、個人差や各家庭の学習を支援できる体制が均一ではないために、個々の学習量の差が出てしまい、それが学力差となって表れてしまうことが課題である。 ・東京ベーシックドリルの学習は、長年取り組むことで定着し、基礎学力の確保に努める児童は多い。 ・本校の少人数指導が、それぞれの児童にとりましては、先生に対して質問しやすい環境、しっかりと見てもらえる安心感などがあり、学習の分かりやすさにつながっている。	A B C D	9 1 0 0	○少人数なのが良い。 ○個を大切にした取り組みができていると思います。 ○少人数であることで、「個に応じた対応」ができ、それが基礎学力の向上につながっていると考えます。 ○少人数の状況を生かし、着実に学力を伸ばすことができているものと思います。 ○学習カルテの活用、素晴らしいと思います。また、個の支援も工夫されているようで、是非今後もお願いします。また、活動や体験を重視した「分かる授業」の展開もされて素晴らしいです。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。	3							
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80%以上の教員が働きかけた。 2：60%以上の教員が働きかけた。 1：60%以下の教員が働きかけた。	4							
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	3							
		東京ベーシックドリルの合格を目指して、基礎・基本の学習指導の充実を図る。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4							
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4	年度末児童アンケートで「副籍校にいたときより自分の良いところが出せていると思いますか。」という質問項目で、 4：肯定的評価が90%以上 3：肯定的評価が80%以上 2：肯定的評価が70%以上 1：肯定的評価が70%未満	4: 3: ○ 2: 1:	B	・児童の自己肯定感を高めるために、運動会・学習発表会・児童集会等の学校行事や「あわ夢まつり」に参加し一生懸命に活動し表現する場を設けた。今年度は開校40周年記念式典や祝賀会で本校の児童の歌や踊りを披露する場があり児童それぞれにはやり切った充足感を得ることができた。行動規制の緩和により、地元小中学校の文化祭や地域の祭り、OTAふれあいフェスタへの参加を目指したい。 ・学校や寄宿舎内におけるいじめは存在する。学校と寄宿舎が連携し取り組むことはできたが、児童個々の中に「いじめはいけないことである。」という意識を根付かせるとともに、お互いが学校生活の中で相手に対して思いやり、個々の特性を認め合う環境づくりに全教職員が一体となって取り組む。	A B C D	8 2 0 0	○地域の行事に参加して、安房夢まつりで一生懸命やり、評価される。 ○子供の課題に対して、全教員で問題を共有することが大切で、大事にしているので、これからも取り組んでもらいたい。 ○活躍できる場の設定は、適切な実態把握がなされているからであると考えます。 ○運動会を参観させていただきました。子供たちが、生き生きと活動していました。その陰には、先生方も先生方も生き生きと活動されている姿も印象的でした。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3							
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3							
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4							
		ソーシャルスキルトレーニングを計画的に実施し、児童に社会性を身に付けさせていく。	4：「計画的に実施ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4	年度末児童アンケートの「副籍校にいたときより体力が付いたと思いますか。」という質問項目で、 4：肯定的評価が90%以上 3：肯定的評価が80%以上 2：肯定的評価が80%以上 1：肯定的評価が70%未満	4: ○ 3: 2: 1:	A	・体力づくりの中心である、持久走・なわ跳びは、カードにより目標設定し、走行距離やなわ跳び技のチャレンジする児童は多い。運動することに苦手意識があり、前向きに取り組むことが難しい児童に対して、言葉がけや支援を継続的に行いたい。 ・帰省期間中の生活の乱れを心配する保護者は、約半数にのぼる。特に、保護者が出勤後や不在時の過ごし方に課題があり、保護者と学校、場合により副籍校登校や登校後の放課後遊び教室・児童館等、地域の関係機関との連携を図る必要がある。	A B C D	10 0 0 0	○自信を持たせることは、大事。声かけは、大事であると思います。 ○館山の地の利を生かして、充実した活動が行えていると思います。 ○校庭で遊ぶ、運動時間が確保していることや持久走に取り組む。 ○たとえ家に戻ったときに生活が乱れたとしても、「何が正しくて、何が必要なのか。」ということについて、さざなみ学校さんで学べているので、気持ちは育っていると感じました。 ○さざなみ学校で培った力や生活習慣を副籍校でも生かすことができるようになると、猶更素晴らしいと思います。（難しいとは思いますが・・・） ○各学期、なわ跳び、持久走の取り組み、また、放課後の体力づくりを徹底していて、個の体力が確実に伸びているのが、とても素晴らしいと思いました。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4							
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4							
		年間を通して持久走に取り組み、体力の向上を図る。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4							
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境を作ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4	年度末保護者アンケートで「学校は、子供たち一人一人の良さを認め、伸ばす指導をしていると思いますか。」という質問項目で、 4：肯定的評価が 95%以上 3：肯定的評価が 90%以上 2：肯定的評価が80%以上 1：肯定的評価が80%未満	4: ○ 3: 2: 1:	A	・校内研修では、久々に学校と寄宿舎が連携し、自立活動を中心に研究授業を行うことができた。また、房総地区東京都公立特別支援学校研究協議会の授業交流が復活し、研修の場が増えたことは望ましかった。区教研や都の模範授業の公開に参加できる場を確保し，教員個々の授業力の向上を目指したい。 ・保護者が本校に児童を入学させ、短期間のうちに児童が変容する様子について驚くとともに、一人一人の個の良さを認めている点を１００％の保護者が感じていることは特筆されるべき回答である。	A B C D	9 1 0 0	○PTAと学校の関係が良いと思います。 ○学校行事に取り組める。 ○子供が変わることができる要因の一つとして、「環境」。その環境づくりを学校として様々な取り組みをした結果なので、今後も生かしていってもらいたいです。 ○（プラン4コメントと同様に）さざなみ学校で培った力や生活習慣を副籍校でも生かすことができるようになると、猶更素晴らしいと思います。（難しいとは思いますが・・・） ○地域の教育環境の有効で積極的利用もあっていいなと思います。先生方が一緒の環境も素晴らしいと思います。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3							
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3							
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	4							
		自然や地域の人材を生かした、体験活動を取り入れた授業や行事を行う。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4							
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	4	年度末保護者アンケートで、「学校は、教育活動を館山市民や大田区民に広報するために、様々な活動をしたり、学校だよりやホームページなどで分かりやすく伝えていると思いますか。」という質問項目で、 4：肯定的評価が90%以上 3：肯定的評価が80%以上 2：肯定的評価が70%以上 1：肯定的評価が70%未満	4: 3: ○ 2: 1:	B	・ホームページを今年度尾は、毎週１回を目標に更新を目指し、順調に行うことがほぼできた。学校生活は、「学校日記」、寄宿舎の情報は「寄宿舎ブログ」を連携させホームページに掲載することにより、情報を数多く提供することができた。数年前は３分の２以下であった肯定的評価が、今年度は８５％を上回り、引き続き広報活動を充実させたい。 ・感染症拡大により9月の道徳授業地区公開講座までは、授業公開はできなかったが、運動会・開校40周年記念式典・祝賀会の児童の様子を披露することで、今年度の児童の様子を見ていただける機会が3年ぶりにできたことは良い場であった。一方御参観できなかった方への広報活動には課題があった。次年度改善したい。	A B C D	6 4 0 0	○地域の情報、行事等を入れたら良いのでは、例として節分・小塚大師・里いもまつり等。 ○ホームページ、ブログに学校行事や寄宿舎の生活を保護者の要望から改善した。 ○情報の発信は、本来の仕事に対して＋αの取り組みだと思いますが、十分に取り組めていると思います。 ○プロぐでは、タイムリーに伝えることができ、有効であると考えます。私の勤務校も活用しており、コロナ禍では、特にそう思います。 ○情報提供の方法、内容についたは、私たち小中学校でも課題であると考えています。勉強させていただきます。 ○これからの情報発信、よろしくお願いいたします。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。	3							
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	3							
		児童と保護者が共同で参加する授業や家庭とのカードや連絡ノートのやり取りを行い、健康課題の克服を図る。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年2回以上行った。 1：実施しなかった。	4							

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。